

## 第4回 著作権教育実践応募事例に関する選考委員コメント

北海道 北海道高等聾学校（高校全学年 専攻科1・2年）

4コマ情報モラルを活用した全校的な取り組み

- ・生徒や職員のみならず、寄宿舍の指導員や保護者にも広めたことを評価する。学校の特性から携帯電話やプロフでの指導とされているが、これらは現在の高校生が広く使用しており一般化できる指導となっている。さらに、特別な時間を割くことなく掲示型教材を開発したことは、独創性と普遍性を備えた指導である。
- ・教材として、プロフなど生徒の身近なネットツールを活用したことはもとより、校内のみならず、寄宿舍といった生活の場面で、実践されたことの意義は大きい。特に、学校で教えた事が、家庭に戻ると保護者がなし崩しにしてしまう場合がある中で、保護者も包括した著作権教育は重要である。
- ・ショートホームルームや放課後を活用するという発想は、現場の実態に合っている。また、提示型教材を使うことで、指導者が情報モラル教育を実施しやすくなると思う。
- ・困難な状況のなかで実情に即した教材開発をし、実践に効果を上げている様子が分かる。汎用性もある。
- ・提示型教材を開発し実践した事例で、開発教材は公表されており簡便に利用できる点が評価できる。聾学校生徒の特性に応じた実践であるが、通常の高中生にも適用できる内容である。
- ・ねらいが大変良い。他の生徒や教職員に情報モラルに対する意識を高めようとしていることは、とてもよい啓発活動である。プロフでの使用についてなど、実際の生活で起こりうることを教材として取り上げた点は生徒の意識を高めることになりよい。聾学校での教材として、今後の活用が期待される。
- ・4コマ形式の教材を開発し、各教室に常に掲示して生徒の目にいつでも入るようにしているという実践方法が高く評価できる。朝の打ち合わせで全教員で共通理解している点もすばらしい。
- ・継続的に著作権教育へ取り組んでいる点、および、日常生活の中でインターネットを活用していることから情報モラル教育への積極的な実践も高く評価したい。